

消 防 年 報

2023年版
(令和5年)



明石市消防局

2024年(令和6年)刊行

ひと目でわかる私たちの消防

市 勢

(2024年4月1日現在)

				
面積	人口	人口密度	世帯数	消防予算(百万円)
49.42km ²	306,821人	6,208人/km ²	144,134世帯	3,333

組織・施設

			
署 所	消 防 職 員 数	消 防 団	消 防 水 利
消防局 1 消防署 1 分 署 6	255人	団員数 972人 (8分団 50班) 車両数 47台	消火栓 7,634基 防火水槽 587基

消防車両 (49台)

					
消防ポンプ車	救助工作車	救 急 車	はしご車	化 学 車	その他の車両
11台	2台	10台	1台	2台	23台

予 防 ・ 防 災

		
防火対象物(延面積150m ² 以上)	危 険 物 許 可 施 設	防 災 ・ 防 火 組 織
7,307施設 【内訳】 特定対象物 : 1,903施設 非特定対象物 : 5,404施設	532施設 【内訳】 製造所 : 8施設 貯 蔵 所 : 367施設 取 扱 所 : 157施設	自主防災組織 : 28組織 137,877世帯 婦人防火クラブ : 8団体 155人

災 害 発 生 状 況

					
119番受付	火災出動	救急出動	救助出動	風水害出動	その他の出動
25,876件	56件	17,788件	446件	6件	1,281件

目次

1	明石市の概要	1
2	一般会計と消防費の比較	1
3	気象状況	2
4	気象情報発表状況	3
5	消防庁舎の配置と管轄	4
6	消防通信系統図	5
7	消防局の組織と事務分掌	6
8	消防署の組織と事務分掌	7
9	職員配置状況	8
10	職員階級別年齢構成	9
11	職員階級別勤続年数	10
12	職員研修状況	11
13	消防車両現有表	12
14	消防水利状況	13
15	火災警戒実施状況	13
16	介護予防教育	13
17	防火対象物状況と査察	14
18	危険物許可施設数の推移	15
19	危険物施設の状況と査察	15
20	予防関係事務処理状況	16
21	消防同意事務処理状況	17
22	防火管理講習会実施状況	18
23	危険物施設に係る申請状況	18
24	防災センター来館状況	19
25	訓練指導等の実施状況	19
26	市民救命士講習実施状況	20

災害統計

1	消防通信	
(1)	119番通報受付状況	22
(2)	医療案内状況	22
2	火災出動	
(1)	火災の状況	23
(2)	死傷者の状況	23
(3)	出火時間帯別火災の状況	24
(4)	初期消火の状況	24
(5)	年別火災発生状況	25
(6)	月別火災件数	25
(7)	出火原因別火災件数	26

3	救急出動	
(1)	事故種別出動件数及び搬送人員	27
(2)	救急出動の推移	27
(3)	傷病程度別事故種別搬送人員	28
(4)	年別傷病程度別搬送人員の推移	28
(5)	年齢区分別事故種別搬送人員	28
(6)	年別年齢区分別搬送人員の割合	29
(7)	月別事故種別出動件数及び搬送人員	29
(8)	現場到着所要時間別出動件数	30
(9)	病院収容所要時間別搬送人員	30
(10)	急病の疾病分類別搬送人員	30
4	救助出動	
(1)	発生場所別救助件数	31
(2)	月別事故種別出動件数	32
(3)	救助件数の推移	32
5	風水害出動	32
6	その他の災害出動	33

消防団

1	消防団組織機構	35
2	消防団員階級別年齢構成	36
3	消防団員階級別分団人員	37
4	消防団機械器具配備状況	37
5	消防団員の表彰等受章状況	38

付録

明石消防の沿革	39~45
---------	-------

※この年報は、災害統計は暦年(1月1日から12月31日まで)、災害統計以外は会計年度(4月1日から翌年3月31日まで)としています。そのほか必要に応じて当該表の右上又は下に基準日等を表示しています

(備考)

- 1.表構成内容によりゼロ値の表記を「0」又は、空欄としています
- 2.「年中」とあるのは暦年を表しています
- 3.表中の▲は、減少を表しています
- 4.前年度実績が無い場合は、計算外として「-」を記載しています
- 5.端数処理の関係上、表中の計算が合わない場合があります

1 明石市の概要

明石市は、東経135度の日本標準時子午線上にあります。

また、瀬戸内海に面しており、明石海峡をはさんで淡路島を眼前に臨むことができます。気候は温暖で、古くは万葉歌人柿本人麻呂によって多くの歌が詠まれた風光明媚な地です。

さらに、阪神都市圏と播磨臨海地域、そして海を隔てて淡路・四国と結ぶ位置にあり、海陸交通のうえで重要な拠点となっています。

市の東と北は神戸市と接し、西は加古川市、稲美町、播磨町と接しています。市の面積は49.42km²、周囲は60.9kmです。

最長距離は、東西15.6km(海岸線は15.9km)、南北で9.4kmあり、東西に細長いまちを形成しています。

明石市では、「ひと まち ゆたかに育つ～未来安心都市・明石」の実現に向け、市民の皆さんと手を携え、取り組みを進めています。



2 一般会計と消防費の比較

	人口	世帯数	消防職員数	一般会計 (百万円)	消防費 (百万円)	比率
2024	306,821	144,134	255	126,279	3,333	2.6%
2023	305,861	142,766	247	125,619	3,552	2.8%
2022	304,838	141,305	249	120,655	2,729	2.3%
2021	304,189	140,403	238	119,513	2,689	2.2%
2020	303,587	139,103	237	113,783	2,756	2.4%
2019	302,965	137,802	237	111,879	2,912	2.6%
2018	301,199	135,993	242	109,350	2,953	2.7%
2017	298,878	133,863	240	101,821	2,656	2.6%
2016	297,693	132,433	239	104,229	2,599	2.5%
2015	290,493	118,168	244	94,117	2,573	2.7%

※表中の金額は、当初予算額に基づく数値

※人口及び世帯数については、明石市住民基本台帳に基づく数値で、住民票作成対象者の外国人(中長期在留者、特別永住者等)を含みます。

3 気象状況

項目		月											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
気 温	最高(°C)	15.5	14.3	19.8	22.5	26.2	29.9	34.1	35.3	35.0	27.8	25.0	18.3
	日	13	11	24	20、21	11	29	30	5	4	2	5	15
	最低(°C)	-2.7	-1.5	1.6	5.0	8.8	13.3	22.3	24.4	20.3	9.6	3.6	-1.3
	日	25	17	6、14	9	2	4	4	27	24	30	26、29	23
平均風速(m/sec)		3.9	3.4	3.3	4.3	3.4	2.4	2.5	3.6	3.4	3.7	4.4	4.3
降水量(mm)		29.5	28.0	70.5	126.0	190.5	191.5	109.0	145.5	54.0	29.5	82.5	20.0

年間平均気温	年間最高気温	年間最低気温	年間平均風速	年間降水量
16.7	35.3 (°C)	-2.7 (°C)	3.6	1076.5
(°C)	8月5日	1月25日	(m/sec)	(mm)

※表中の数値は、気象庁ホームページより引用

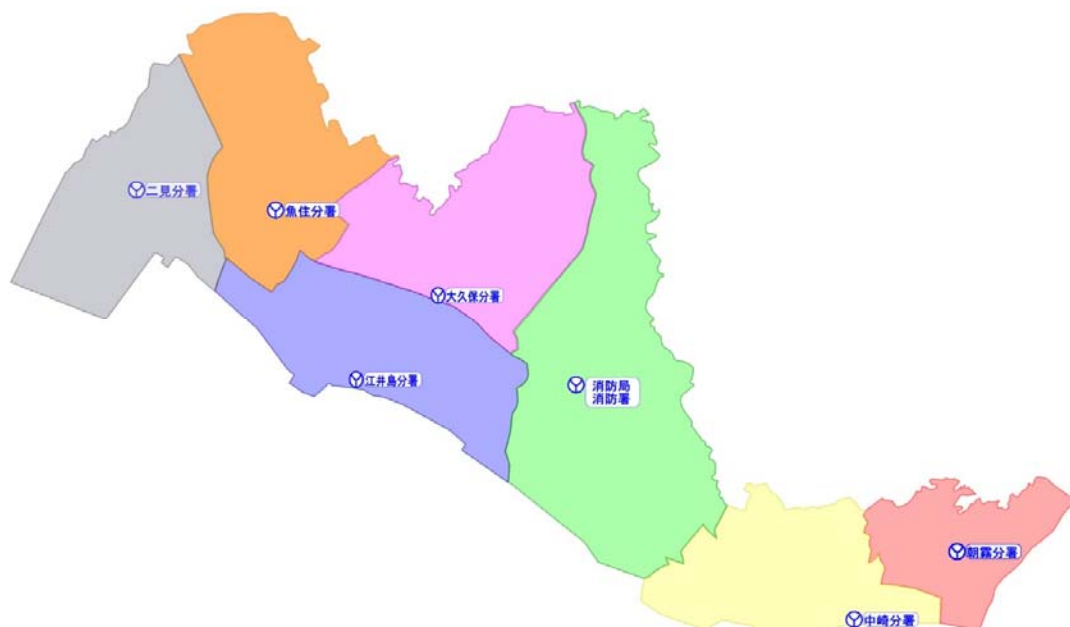
4 気象情報発表状況

項目		月												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
警 報	暴風雪													
	大雨						1		1					2
	洪水						1		1					2
	暴風								1					1
	大雪													
	波浪									1				1
	高潮													
	合計						2		4					6
注 意 報	大雨				3	3	4	4	4	2				20
	大雪	1												1
	風雪	2												2
	雷	3		3	6	7	8	14	15	11	2	1	3	73
	強風	8	2	5	12	7	5	10	9	4	1	3	6	72
	波浪	7	2	5	12	7	5	10	9	4	1	5	6	73
	洪水					1	2		3	1				7
	高潮				1		10	10	13	10		1	1	46
	濃霧	2	1		3	2	1	2					3	14
	乾燥	4	6	7	5	2					2	1	3	30
	なだれ													
	低温	2												2
	霜			5										5
	暴風													
	着雪(氷)													
	合計	29	11	25	42	29	35	50	53	32	6	11	22	345
	津波警報													
津波注意報														

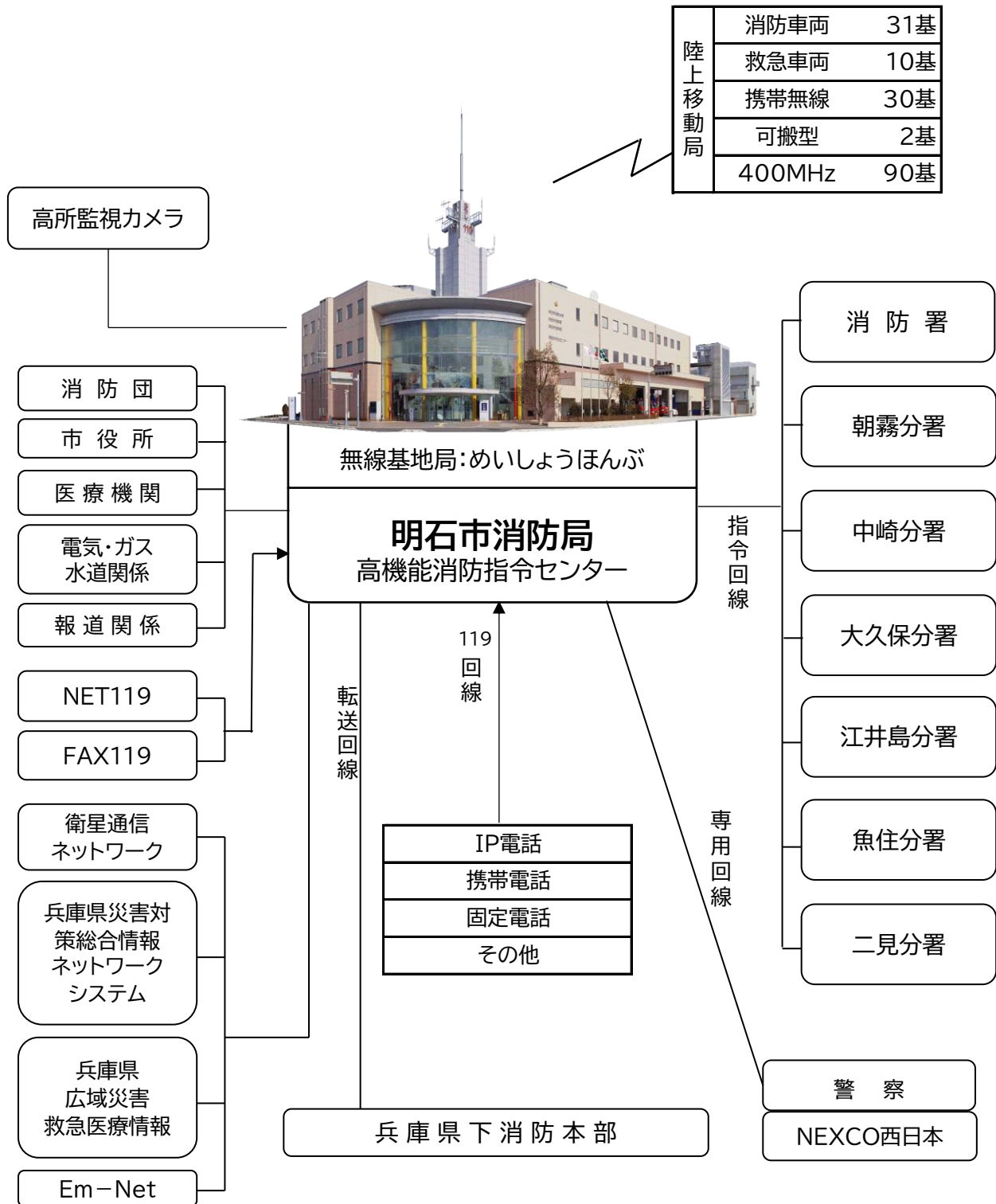
5 消防庁舎の配置と管轄

	庁舎名	所在地	建築年月日	構造	敷地面積	延面積
	朝霧分署	朝霧町3丁目10番1号	昭和46年5月竣工 平成10年3月増改築	鉄筋コンクリート 鉄骨造2階建	623.85㎡	418.82㎡
	中崎分署	中崎1丁目6番20号	昭和47年6月竣工	鉄筋コンクリート造 4階建	1,551.49㎡	2,184.95㎡
	消防局 消防署 防災センター	藤江924番地の8	平成15年2月竣工	鉄筋コンクリート 鉄骨造4階建	6,011.35㎡	5,465.72㎡
	大久保分署	大久保町西脇364番地の12	昭和57年2月竣工 平成23年1月増改築	鉄筋コンクリート 鉄骨造2階建	1,211.48㎡	604.75㎡
	江井島分署	大久保町江井島794番地の8	昭和60年3月竣工 平成23年3月増改築	鉄筋コンクリート造 2階建	714.84㎡	335.60㎡
	魚住分署	魚住町西岡500番地	昭和44年4月竣工 平成12年11月改修	鉄筋コンクリート造 2階建	460.66㎡	301.37㎡
	二見分署	二見町西二見767番地の3	昭和57年12月竣工 平成17年2月増改築	鉄筋コンクリート造 2階建	819.02㎡	536.77㎡

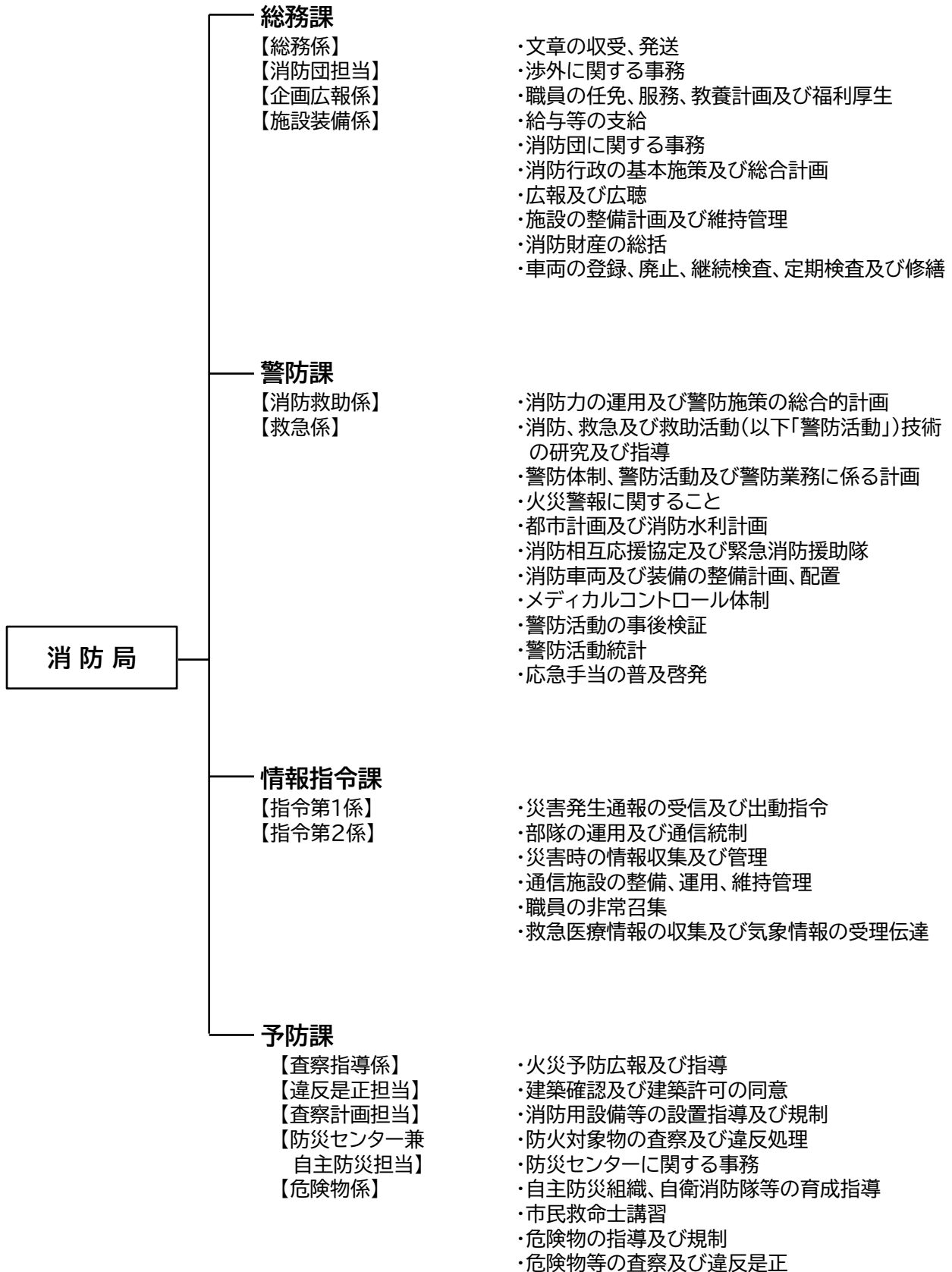
「消防庁舎の配置と管轄」



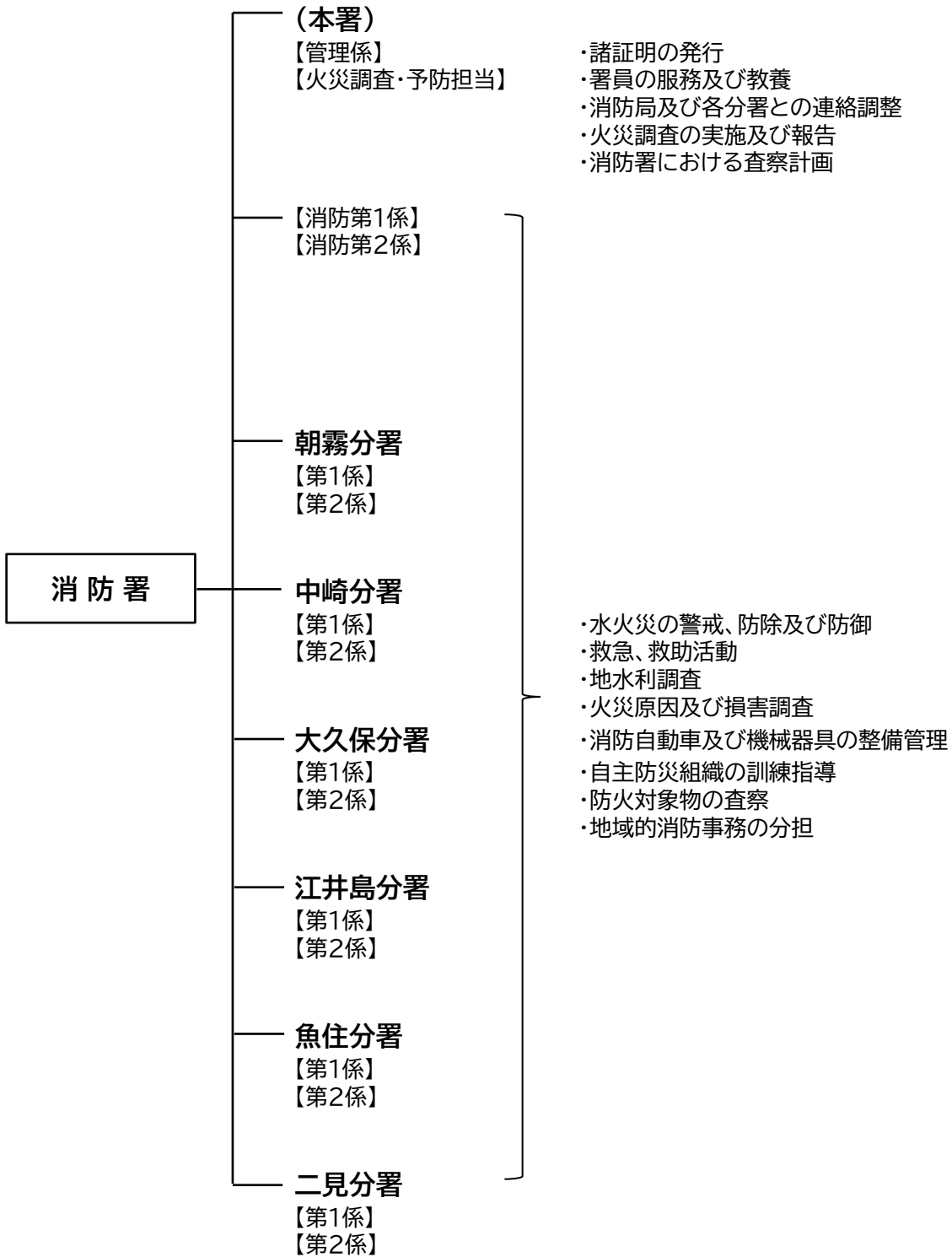
6 消防通信系統図



7 消防局の組織と事務分掌



8 消防署の組織と事務分掌



9 職員配置状況

/		消 防 正 監	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	人 数
消 防 局	局 長	1								1
	次 長		2							2
	総 務 課			2	5	3	3		12	25
	警 防 課			3	1	2	2			8
	情 報 指 令 課			3	2	7	3	1	2	18
	予 防 課			3	4	2	3			12
	小 計	1	2	11	12	14	11	1	14	66
消 防 署	消 防 署		1	5	11	10	10	3	9	49
	朝 霧 分 署				4	7	5		4	20
	中 崎 分 署			3	8	11	8	3	6	39
	大 久 保 分 署				4	8	4		4	20
	江 井 島 分 署				4	8	4		4	20
	魚 住 分 署				4	8	4	1	3	20
	二 見 分 署			1	4	7	6		3	21
	小 計		1	9	39	59	41	7	33	189
合 計		1	3	20	51	73	52	8	47	255

※県・市への出向職員、兵庫県消防学校及び救急救命士養成所への入校職員を含んでいます

10 職員階級別年齢構成

	人数	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士
18歳	2								2
19歳									
20歳	1								1
21歳	2								2
22歳	10								10
23歳	4								4
24歳	12								12
25歳	9							3	6
26歳	6							2	4
27歳	6						1	2	3
28歳	6						4		2
29歳	4						3		1
30歳	6						6		
31歳	2						2		
32歳	5						5		
33歳	7						7		
34歳	5					1	4		
35歳	8					5	3		
36歳	7					4	3		
37歳	7					7			
38歳	10					6	4		
39歳	7					5	2		
40歳	7					5	2		
41歳	4					2	2		
42歳	10				3	7			
43歳	9				2	7			
44歳	6				2	4			
45歳	6				4	2			
46歳	9				6	2	1		
47歳	8				5	2	1		
48歳	5				3	2			
49歳	11				9	2			
50歳	9			2	4	3			
51歳	7			2	1	3	1		
52歳	6			3	2	1			
53歳	4			2	1	1			
54歳	4			3	1				
55歳	3		1	1	1				
56歳	6			3	3				
57歳	6			2	1	3			
58歳	4			1	3				
59歳	4	1	2	1					
60歳	1					1			
61歳									
62歳									
63歳									
64歳									

※ 県・市への出向職員、兵庫県消防学校及び救急救命士養成所への入校職員を含みます
平均年齢 39.4歳

11 職員階級別勤続年数

	人数	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士
1年未満	12								12
1年	7								7
2年	15								15
3年	7							3	4
4年	3							1	2
5年	3						1		2
6年	5						2		3
7年	3						1		2
8年	4						3	1	
9年	6						4	2	
10年	3						3		
11年	8						8		
12年	9					4	5		
13年	9					5	4		
14年	5					2	3		
15年	10					5	5		
16年	15					7	8		
17年	9					7	2		
18年	8					6	2		
19年	7					7			
20年	12				3	9			
21年	6				4	2			
22年	3				3				
23年	7				4	3			
24年	3				3				
25年	1				1				
26年	4				2	2			
27年	9			1	8				
28年	2			2					
29年	8			2	4	2			
30年	9			2	4	3			
31年	6			2	1	3			
32年	8			2	4	2			
33年	5		1	1	1	2			
34年	3			1	2				
35年	2				1	1			
36年	2			2					
37年									
38年	4			2	2				
39年	6		1	2	1	2			
40年	3				3				
41年	3	1	1	1					
42年	1					1			
43年									
44年									
45年									
46年									

※ 県・市への出向職員、兵庫県消防学校及び救急救命士養成所への入校職員を含みます

平均勤続年数 17.9 年

12 職員研修状況

研 修 先	科 目	期 間	対 象	人 員
消 防 大 学 校	緊急消防援助隊教育科NBCコース	18日間	消防司令補	1
兵 庫 県 消 防 学 校	初任教育	6カ月	新規採用者	7
	専科教育 火災調査科	10日間	消防士長	1
	専科教育 特殊災害科	10日間	消防司令補	1
	専科教育 救助科	22日間	消防士長	1
	専科教育 救急科	38日間	消防士	7
	専科教育 予防査察科	10日間	消防士長	1
	幹部教育 初級幹部科	10日間	消防司令補	1
	幹部教育 上級幹部科	3日間	消防司令長	1
	特別教育 災害現場指揮科	3日間	消防司令	1
	特別教育 潜水科	5日間	消防士	1
	惨事ストレス研修	2日間	消防司令長	1
兵庫県救急救命士養成所	救急救命士	7カ月間	消防司令補	1
救急救命東京研修所	救急救命士	7カ月間	消防士長	1

13 消防車両現有表

所属		車両番号	車両用途別	車体メーカー	初度登録日
消防局	1	神戸302そ6609	連絡車	トヨタ	2010/4/30
	2	神戸531み1809	連絡車	日産	2018/9/21
	3	神戸483こ1811	連絡車	ホンダ	2018/11/22
	4	神戸332ね1803	人員搬送車	日産	2018/3/20
	5	神戸800す9896	警防指揮車	三菱	2006/6/23
	6	神戸800そ1240	警防指揮車	日産	2006/7/29
	7	神戸830ち2102	査察広報車	日産	2021/2/16
	8	神戸800す8574	査察広報車	日産	2005/11/28
	9	神戸400ひ8631	応急手当普及啓発車	トヨタ	2017/11/28
消防署	10	神戸800す8770	指揮車	日産	2005/12/26
	11	神戸800そ2102	指揮車	トヨタ	2021/2/1
	12	神戸800は2107	水槽付消防ポンプ車	日野	2010/1/18
	13	神戸800は1712	水槽付消防ポンプ車	日野	2007/12/11
	14	神戸800は2305	化学車	日野	2011/1/20
	15	神戸830そ1903	救助工作車	日野	2019/3/8
	16	神戸830す2403	高規格救急自動車	トヨタ	2024/3/4
	17	神戸830そ1199	高規格救急自動車	トヨタ	2015/10/29
	18	神戸800は3035	はしご車	日野	2014/11/20
	19	神戸800は2519	多目的災害コンテナ車	日野	2012/2/28
	20	神戸800は2303	支援車	日野	2011/1/18
	21	神戸800せ1338	緊急輸送車	日産	2007/1/29
	22	神戸480せ3583	連絡車	スズキ	2010/3/16
	23	1神戸 ゆ 3811	赤バイ	カワサキ	2001/3/22
24	1神戸 ゆ 3812	赤バイ	カワサキ	2001/3/22	
朝霧分署	25	神戸830す1711	水槽付消防ポンプ車	日野	2017/11/22
	26	神戸830そ2211	高規格救急自動車	トヨタ	2022/11/7
	27	神戸800す6955	緊急作業車	日産	2005/3/10
中崎分署	28	神戸800は2523	水槽付消防ポンプ車	日野	2012/3/6
	29	神戸800せ4766	水槽付消防ポンプ車	日野	2009/1/13
	30	神戸800す9118	消防ポンプ自動車	いすゞ	2006/2/27
	31	神戸830つ2102	消防ポンプ自動車	日産	2021/2/18
	32	神戸800は2468	救助工作車	日野	2011/12/13
	33	神戸830す1710	高規格救急自動車	トヨタ	2017/10/20
	34	神戸800そ1623	高規格救急自動車	トヨタ	2013/11/14
	35	神戸800せ 337	緊急作業車	日産	2006/8/28
大久保分署	36	神戸800は3456	水槽付消防ポンプ車	日野	2016/11/24
	37	神戸800せ4767	消防ポンプ自動車	日野	2009/1/13
	38	神戸830た2012	高規格救急自動車	トヨタ	2020/12/2
	39	神戸800せ2234	緊急作業車	日産	2007/7/13
江井島分署	40	神戸830そ2111	消防ポンプ自動車	日野	2021/11/18
	41	神戸830さ1810	高規格救急自動車	トヨタ	2018/10/10
	42	神戸800す7638	緊急作業車	日産	2005/7/8
魚住分署	43	神戸800そ 617	消防ポンプ自動車	日野	2013/2/26
	44	神戸830た1909	高規格救急自動車	トヨタ	2019/9/13
	45	神戸800す7637	緊急作業車	日産	2005/7/8
二見分署	46	神戸830て2003	化学車	日野	2020/3/2
	47	神戸830す2203	高規格救急自動車	トヨタ	2022/3/3
	48	神戸830せ1610	高規格救急自動車	トヨタ	2016/11/1
	49	神戸800す6956	緊急作業車	日産	2005/3/10

は緊急車両

14 消防水利状況

種別	区 分	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	
消 火 栓	公 設	7,463	7,447	7,445	7,449	7,436	
	私 設	171	171	171	167	145	
	小 計	7,634	7,618	7,616	7,616	7,581	
防 火 水 ぞ う	公 設	飲料水兼用100㎡	9	9	9	9	9
		100㎡以上	1	1	1	1	1
		60㎡以上100㎡未満	3	3	3	3	3
		40㎡以上60㎡未満	210	209	208	207	202
		20㎡以上40㎡未満	2	2	2	2	2
	私 設	100㎡以上	16	15	15	16	15
		60㎡以上100㎡未満	24	24	24	23	23
		40㎡以上60㎡未満	313	297	297	290	291
		20㎡以上40㎡未満	9	9	9	9	9
	小 計		587	569	568	560	555
合 計		8,221	8,187	8,184	8,176	8,136	

15 火災警戒実施状況

	回数	時 間	人員	警戒地域	期 間
年末特別消防巡ら警戒	182	120時間40分	600	市内全域	12月10日～12月31日
年始特別消防巡ら警戒	80	52時間58分	260	市内全域	1月1日～1月10日

16 介護予防教育

(子どもと取組む介護予防プロジェクト)

予防救急の視点から、脳卒中と高齢者の骨折による要介護者を減少させるため、2014年9月から、市内の小学校高学年を対象に介護予防教育の取組みを進めています。

実 施 年 度	学 校 数	組 数	時 間	人 数
2023	12	32	22	1,016
2022	10	30	17	896
2021	10	32	14	925
2020	11	29	13	868
2019	16	45	29	1,311
2018	18	53	34	1,543
2017	20	57	39	1,637
2016	22	66	41	2,006
2015	17	49	32	1,489
2014	11	29	21	883

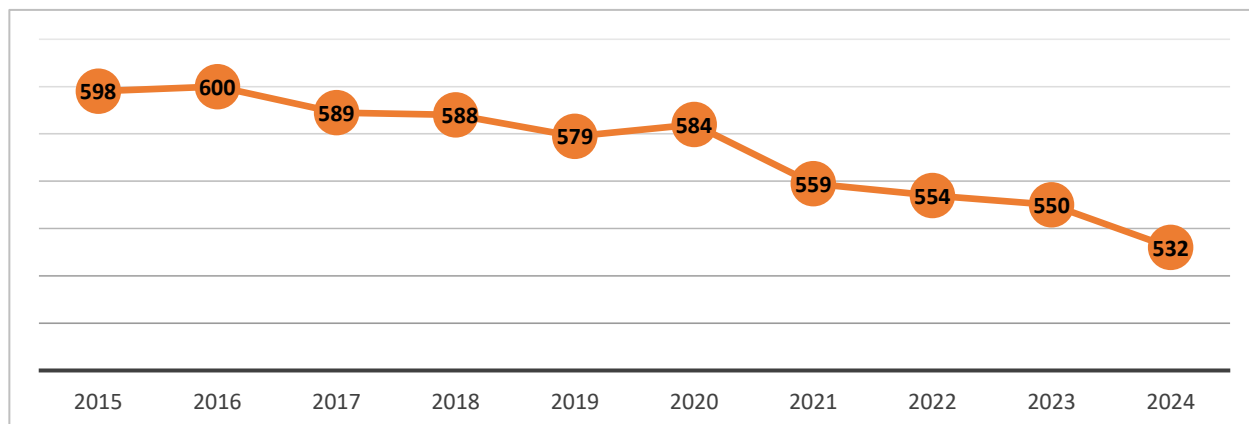
※ 2022年度に、受講人数の累計が1万人を超えました。

17 防火対象物状況と査察

防火対象物数(延べ面積150㎡以上)は 2024年4月1日現在、査察実施数は 2023年度

防火対象物		区分	防火対象物数	査察実施数
1項	イ	劇場等、映画館、演芸場又は観覧場	4	1
	ロ	公会堂又は集会場	132	16
2項	イ	キャバレー、カフェ、ナイトクラブなど		
	ロ	遊技場又はダンスホール	12	3
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗など		
	ニ	カラオケボックス、インターネットカフェなど	1	1
3項	イ	待合、料理店など		
	ロ	飲食店等	114	47
4項		百貨店などの物品販売店又は展示場	251	71
5項	イ	旅館、ホテル、宿泊所など	24	9
	ロ	寄宿舎、下宿又は共同住宅	2,649	270
6項	イ	病院、診療所又は助産院	128	44
	ロ	老人短期入所施設・障害児入所施設など	77	45
	ハ	老人デイサービスセンター・児童養護施設など	241	71
	ニ	幼稚園又は特別支援学校	9	2
7項		小学校、中学校、高等学校など	218	22
8項		図書館、博物館、美術館など	2	2
9項	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場など		
	ロ	イ以外の公衆浴場	5	1
10項		車両の停車場など	10	
11項		神社、寺院、教会など	87	12
12項	イ	工場又は作業所	775	75
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ		
13項	イ	自動車車庫又は駐車場	58	9
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫		
14項		倉庫	419	38
15項		前各項に該当しない事業所	805	90
16項	イ	特定用途に供する複合用途防火対象物	910	383
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	367	64
16の2項		地下街		
16の3項		準地下街		
17項		重要文化財	3	3
18項		延長50m以上のアーケード	6	
合 計			7,307	1,279

18 危険物許可施設数の推移



19 危険物施設の状況と査察

危険物施設数は 2024年4月1日現在、査察実施数は 2023年度

施設別		貯蔵・取扱い危険物・指定可燃物						施設数	査察数	
		1類	2類	3類	4類	5類	6類			指定可燃物
危険物許可施設	製造所				8			8	8	
	貯蔵所	屋内貯蔵所		2		136	2		138	24
		屋外タンク貯蔵所				61			61	28
		屋内タンク貯蔵所				8			8	
		地下タンク貯蔵所				94			94	17
		簡易タンク貯蔵所								
		移動タンク貯蔵所				45			45	53
		屋外貯蔵所				21			21	15
	取扱所	給油取扱所				49			49	11
		販売取扱所				2			2	
		一般取扱所				106			106	111
計			2		530	2		532	267	
少量危険物・指定可燃物施設		1	3		526			117	646	19
合計		1	5		1,056	2		1,178	286	

類別	性質	代表的な物質
第1類	酸化性固体	塩素酸ナトリウム、硫酸カリウム、硝酸アンモニウム
第2類	可燃性固体	赤リン、硫黄、鉄粉、固形アルコール、ラッカーパテ
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	ナトリウム、アルキルアルミニウム、黄リン
第4類	引火性液体	ガソリン、灯油、軽油、重油、アセトン、メタノール
第5類	自己反応性物質	ニトログリセリン、トリニトロトルエン、ヒドロキシルアミン
第6類	酸化性液体	過塩素酸、過酸化水素、硝酸

20 予防関係事務処理状況

(1) 防火対象物関係

申請届出の種類	処理件数	申請届出の種類	処理件数
建築同意	296	喫煙承認申請	
防火管理者選任(解任)届出	660	裸火使用承認申請	7
消防計画作成(変更)届出	703	危険物品持込み承認申請	49
防災管理者選任(解任)届出	17	変・発・蓄電・急速充電設備設置届出	48
防災管理消防計画作成(変更)届出	20	ネオン管設備設置届出	
統括防火管理者選任(解任)届出	20	炉設置届出	4
全体の消防計画作成(変更)届出(防火)	21	厨房設備届出	
統括防災管理者選任(解任)届出	1	温風暖房機設置届出	
全体の消防計画作成(変更)届出(防災)	1	ボイラー設置届出	9
管理権原者変更届出		給湯湯沸設備届出	7
防火管理者の証交付申請	5	乾燥設備設置届出	4
消防用設備等着工届出	300	サウナ設備届出	1
消防用設備等工事届出	276	ヒートポンプ冷暖房機設置届出	4
消防用設備等設置届出	1,065	火花を生ずる設備設置届出	
消防用設備等点検結果届出	2,527	放電加工機設置届出	
防火対象物使用開始届出	636	百貨店等の避難通路設置変更届出	6
防火対象物点検報告特例認定申請	3	煙火打上げ仕掛け届出	3
防災管理点検報告特例申請		催物開催届出	10
防火対象物定期点検結果報告書	164	消防用設備業届出	10
防災管理点検結果報告書	10	基準の特例適用申請書	19
表示マーク交付(更新)申請		指定洞道等届出	
自衛消防組織設置(変更)届出	12	露店等の開設届出	85
消防設備等検査済証交付	51	火災予防上必要な業務に関する計画	7
消防法令適合通知交付申請書	3	合 計	7,064

(2) 危険物関係

申請届出の種類	処理件数	申請届出の種類	処理件数
危険物製造所等設置(変更)許可申請	176	危険物製造所等廃止届出	25
危険物製造所等仮使用承認申請	166	危険物製造所等災害発生届出	6
危険物製造所等完成検査申請	151	危険物製造所等再開届	
予防規程制定(変更)認可申請	8	危険物製造所等休止届	1
危険物仮貯蔵仮取扱承認申請	9	危険物製造所等譲渡引渡届	
危険物製造所等完成検査前検査申請	59	少量危険物・指定可燃物貯蔵取扱(変更)届出	71
危険物製造所等軽微変更届出	400	少量危険物・指定可燃物貯蔵取扱廃止届出	34
危険物製造所等品名、数量又は指定数量の倍数変更届出	18	液化石油ガス・圧縮アセチレンガス貯蔵取扱届出	5
危険物保安監督者選任解任届出	43	液化石油ガス・圧縮アセチレンガス貯蔵取扱廃止届出	
工事整備対象設備等着工(設置)届出	26	毒物・劇物貯蔵取扱届出	
危険物製造所等火気使用工事届出	205	毒物・劇物貯蔵取扱廃止届出	
		合 計	1,403

21 消防同意事務処理状況

防火対象物		区分	新築	増築	改築 移築等	合計
1項	イ	劇場等、映画館、演芸場又は観覧場				
	ロ	公会堂又は集会場	1	1		2
2項	イ	キャバレー、カフェ、ナイトクラブなど				
	ロ	遊技場又はダンスホール				
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗など				
	ニ	カラオケボックス、インターネットカフェなど				
3項	イ	待合、料理店など				
	ロ	飲食店等	4			4
4項		百貨店などの物品販売店又は展示場	24	2		26
5項	イ	旅館、ホテル、宿泊所など				
	ロ	寄宿舍、下宿又は共同住宅	62			62
6項	イ	病院、診療所又は助産院	7			7
	ロ	老人短期入所施設・障害児入所施設など	5			5
	ハ	老人デイサービスセンター・児童養護施設など	1			1
	ニ	幼稚園又は特別支援学校				
7項		小学校、中学校、高等学校など	1	6		7
8項		図書館、博物館、美術館など				
9項	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場など				
	ロ	イ以外の公衆浴場				
10項		車両の停車場など				
11項		神社、寺院、教会など				
12項	イ	工場又は作業所	5	4		9
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ				
13項	イ	自動車車庫又は駐車場	5	2		7
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫				
14項		倉庫	7			7
15項		前各項に該当しない事業所	53	6		59
16項	イ	特定用途に供する複合用途防火対象物	8		3	11
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	2			2
16の2項		地下街				
16の3項		準地下街				
17項		重要文化財				
18項		延長50m以上のアーケード				
専用住宅等			87			87
建築設備等						
合 計			272	21	3	296

22 防火管理講習会実施状況

	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
乙種防火管理講習 修了者数	28	23	19	15	17

23 危険物施設に係る申請状況

区分	施設区分	合計	製造所	貯 蔵 所						取 扱 所		
				屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	給油取扱所	販売取扱所
	設置許可	5		2			1			1		
	変更許可	171	1	1	20		1			3		13
	仮使用承認	166	1	1	20		1					12
完成検査	設置	7		2			1			2		1
	変更	168	1	3	19		1			2		13
合計		517	3	9	59		5			8		40

予防規程認可 (制定・変更)	8
仮貯蔵仮取扱承認	9
完成検査前検査	59
合計	76

24 防災センター来館状況

	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
4月	701	501	479	66	1,774
5月	1,136	722	439	61	1,767
6月	1,340	815	796	208	2,202
7月	1,243	1,143	617	522	1,622
8月	1,049	587	742	501	1,429
9月	2,494	631	648	670	1,642
10月	1,910	1,304	976	578	1,105
11月	1,442	1,158	1,065	891	1,180
12月	1,621	1,186	1,090	753	866
1月	1,800	744	1,279	327	970
2月	1,885	1,107	590	261	1,324
3月	1,387	682	535	250	775
合計	18,008	10,580	9,256	5,088	16,656

※会議・講演・協議会等の来館者を含みます

25 訓練指導等の実施状況

内容	対象	自主防災 組織等	宿泊施設 事業所等	小・中・高 各種学校等	幼稚園 保育園	その他の 団体	合計
	防火指導	回	78	85	18	73	
	受講者	5,964	3,585	6,182	8,252		23,983
防災指導	回	16	11	8	5		40
	受講者	2,147	8,628	3,072	653		14,500
救急指導	回	23	17		1		41
	受講者	1,865	776		15		2,656
合計	回	117	113	26	79		335
	受講者	9,976	12,989	9,254	8,920		41,139

26 市民救命士講習実施状況

		I	II	III	上級	インストラクター	KIDS	救命入門 コース	小計
4月	回	2		1	1			2	6
	受講者	19		9	2			45	75
5月	回	13		2	2	1		7	25
	受講者	251		12	2	4		278	547
6月	回	12		10	5	2		13	42
	受講者	166		107	36	3		389	701
7月	回	10		7	1			3	21
	受講者	158		83	2			92	335
8月	回	6			3			1	10
	受講者	78			29			8	115
9月	回	14		2	3			4	23
	受講者	204		26	4			94	328
10月	回	6		1	2	2	1	2	14
	受講者	88		15	18	9	38	32	200
11月	回	8		1	3	2		3	17
	受講者	165		11	20	5		70	271
12月	回	9			3			3	15
	受講者	113			16			64	193
1月	回	2	2	2	1				7
	受講者	29	38	29	1				97
2月	回	14		1	7	1		1	24
	受講者	243		11	50	2		13	319
3月	回	9		1				2	12
	受講者	125		12				44	181
合計	回	105	2	28	31	8	1	41	216
	受講者	1639	38	315	180	23	38	1129	3362

市民救命士講習の区分

- I : 主に成人を対象とした心肺蘇生法の講習(3時間)
- II : 医療従事者に対する講習(4時間)
- III : 主に小児、乳児、新生児の心肺蘇生法を対象とした講習(3時間)
- 上級 : 成人、小児、乳児、新生児を対象とした心肺蘇生法、傷病者管理法、副子固定法、熱傷の手当、搬送法等の講習(8時間)
- インストラクター : 事業所又は防災組織等において従業員又は、防災組織等の構成員に対して行う市民救命士講習の指導に従事する者を養成する講習(8時間×3日間)
- KIDS : 小学4年生以上6年生以下の者を対象とした講習(1時間30分)
- 救命士入門コース : 主に成人を対象とした心肺蘇生法の入門講習(90分・45分)

災害統計

- 1 消防通信
- 2 火災出動
- 3 救急出動
- 4 救助出動
- 5 風水害出動
- 6 その他の災害出動

1 消防通信

(1)119番通報受付状況

区分	種 別	2023年	2022年	対前年比 増減数	
災 害 関 係 通 報	火 災	133	95	38	
	救 急	17,121	15,692	1,429	
	救 助	336	305	31	
	風 水 害	4	12	▲ 8	
	そ の 他 の 災 害	301	263	38	
	他 市 へ 転 送	加 古 川 市	224	227	▲ 3
		神 戸 市	482	451	31
		そ の 他	36	32	4
	小 計	18,637	17,077	1,560	
そ の 他 通 報	い た ず ら	15	13	2	
	医 療 案 内	2,591	2,501	90	
	間 違 い	2,176	1,317	859	
	そ の 他	1,495	1,868	▲ 373	
	小 計	6,277	5,699	578	
通 報 訓 練		962	862	100	
合 計		25,876	23,638	2,238	

※「他市へ転送とは、市外で発生した災害関係通報を受付けた場合に、該当する管轄消防本部へ切断せずに転送することです

(2)医療案内状況「診療科目別医療案内件数」

科 目	案内件数	科 目	案内件数
外 科	2,433	眼 科	285
内 科	3,963	耳 鼻 科	447
小 児 科	2,464	脳 外 科	701
整 形 外 科	2,620	そ の 他	1,011
		合 計	13,924

・緊急性の無い病気やケガ等で医療機関をお探しの場合は、消防局の代表電話へ問合せください
代表電話(078-921-0119)

2 火災出動

(1)火災の状況

区 分	単位	2023年	2022年	増減数
出 火 件 数	件	56	65	▲ 9
建 物 火 災		28	26	2
林 野 火 災				
車 両 火 災		6	12	▲ 6
船 舶 火 災		1		1
航 空 機 火 災				
そ の 他 の 火 災		21	27	▲ 6
焼 損 棟 数	棟	30	26	4
全 焼		3	1	2
半 焼				
部 分 焼		7	3	4
ぼ や		20	22	▲ 2
建 物 焼 損 床 面 積	m ²	284	119	165
建 物 焼 損 表 面 積	m ²	2	64	▲ 62
林 野 焼 損 面 積	a			
死 者 数	人		2	▲ 2
負 傷 者 数	人	6	2	4
り 災 世 帯 数	世帯	21	15	6
全 損		3	1	2
半 損				
小 損		18	14	4
り 災 人 員 数	人	45	31	14
損 害 額	千円	33,251	8,449	24,802
建 物		27,234	8,000	19,234
林 野				
車 両		203	351	▲ 148
船 舶		770		770
航 空 機				
そ の 他		5,044	98	4,946
出 火 率		1.8	2.1	

※ 出火率とは、人口1万人あたりの出火件数です

(2)死傷者の状況

年 年齢区分	死者			負傷者		
	2023年	2022年	2021年	2023年	2022年	2021年
5 歳 以 下						2
6 歳 ~ 64 歳			1	3	2	10
65 歳 以 上		2	1	3		3
年 齢 不 明						
合 計	0	2	2	6	2	15

(3)出火時間帯別火災の状況

時間	区分	出火件数					焼損棟数					死傷者		
		建物	林野	車両	船舶	その他	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	死者	負傷者
0～1時				1		1	2							
1～2時		1					1				1	1		
2～3時		1					1	1				1		1
3～4時						1	1							
4～5時		1					1				1	1		
5～6時		1				1	2			1		1		
6～7時														
7～8時														
8～9時		3		1			4				3	3		
9～10時		5		1			6	1			4	5		
10～11時		1					1				1	1		
11～12時		2		1			3			1	1	2		1
12～13時						2	2							
13～14時		1					1				1	1		
14～15時		1			1	6	8				1	1		1
15～16時		1		2		3	6	1			2	3		
16～17時						2	2							
17～18時		1					1			1		1		2
18～19時		3					3			1	2	3		
19～20時		1				1	2			1		1		1
20～21時		2				1	3			1	1	2		
21～22時						1	1							
22～23時		1				1	2				1	1		
23～24時		1					1				1	1		
不明		1				1	2			1		1		
合計		28		6	1	21	56	3		7	20	30		6

(4)初期消火の状況

	建物		車両		船舶		その他	
	成功	失敗	成功	失敗	成功	失敗	成功	失敗
水バケツ		1						
泡消火器								
二酸化炭素消火器								
粉末消火器								
屋内消火栓設備								
スプリンクラー設備								
水噴霧消火設備								
泡消火設備								
二酸化炭素消火設備								
粉末消火設備	3	2	4				1	4
屋外消火栓設備								
水道、浴槽、汲み置き等の水をかけた	10		1				5	2
寝具、衣類等をかけた								
もみ消した							1	
その他	2						1	1
合計	15	3	5				1	11

(5)年別火災発生状況

年	区分 火災 件数	火災種別					焼損面積		焼 損 棟 数	り 災 世 帯	り 災 人 員	死者数		損 害 額 (千円)
		建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	建 物 (㎡)	林 野 (a)				死 者	負 傷 者	
2023年	56	28		6	1	21	284		30	21	45		6	33,251
2022年	65	26		12		27	119		26	15	31	2	2	8,449
2021年	58	34		9		15	538		36	31	74	2	15	62,285
2020年	55	26		9		20	495		35	37	81	1	12	71,585
2019年	73	38		7		28	622		51	30	70		8	78,954
2018年	74	37		6		31	831		37	34	72	3	15	89,868
2017年	66	42		7		17	3,671		91	54	112	3	9	250,732
2016年	70	45		2		23	572		57	36	86	4	10	66,387
2015年	51	37		1		13	442		71	32	83	2	11	33,991
2014年	77	44		6		27	485		57	43	105	3	18	48,919

10年平均	65	36		7	1	22	806		49	33	76	3	11	74,442
-------	----	----	--	---	---	----	-----	--	----	----	----	---	----	--------

(6)月別火災件数

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2023年	3	7	4	5	5	4	7	5	4	5	2	5	56
2022年	4	9	7	3	2	5	7	7	5	8	3	5	65
2021年	8	8	2	3	8	4	1	3	5	10	3	3	58
2020年	2	2	7	5	7	7	2	4	3	5	4	7	55
2019年	9	2	8	5	11	8	5	6	4	4	5	6	73
2018年	4	5	8	5	7	3	5	9	8	5	7	8	74
2017年	4	8	6	4	3	5	7	7	5	5	9	3	66
2016年	8	4	8	6	3	0	6	5	7	5	12	6	70
2015年	7	5	3	2	5	3	6	3	3	5	6	3	51
2014年	8	5	12	5	7	7	7	2	2	7	7	8	77

(7)出火原因別火災件数

出火原因	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年
たばこ	6	5	6	1	7	3	5	7	4	5
こんろ	2	10	5	8	5	9	7	11	9	14
かまど										
風呂かまど			1							
炉								1		
焼却炉										
ストーブ		1	2	2	1	2	5	1	3	2
こたつ			1							
ボイラー					1					
煙突・煙道										
排気管		2	1		2	1	2		1	1
電気機器	5	6	5	6	5	2	5	4	1	1
電機装置	1	1	2	2	1	5	1	1	1	1
電灯・電話等の配線	2		1	1				2		1
内燃機関	1			1		1				
配線器具	2	4	4	4	4	4	7	3	3	
火あそび	3	1			1	1	1	2	3	6
マッチライター	2	2	1		1	4		1	3	
たき火		1								1
溶接機 切断機						1		3	2	2
灯火								1	1	2
衝突の火花	1	6	5	6		3	1			1
取灰	1				2					
火入れ	3	2	3	2	3	3	4	2	2	
放火	7	15	9	13	24	21	18	13	5	9
放火の疑い	3	1	1	2	1		3	4	1	8
その他	11	6	7	6	13	13	4	11	7	14
不明・調査中	6	2	4	1	2	1	3	3	5	9
合 計	56	65	58	55	73	74	66	70	51	77

3 救急出動

(1)事故種別出動件数及び搬送人員

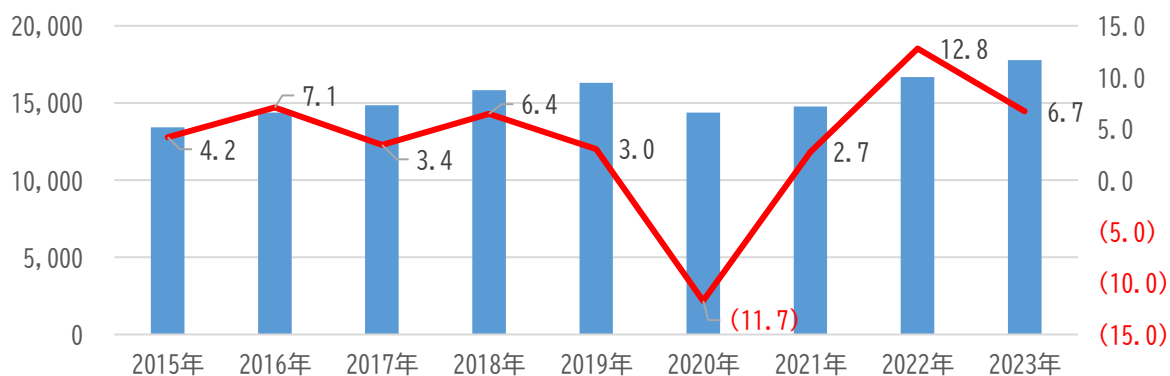
事故種別	2023年		2022年		増減数	
	出動件数	搬送人員	出動件数	搬送人員	出動件数	搬送人員
急病	11,482	9,981	10,744	9,063	738	918
交通事故	930	829	865	758	65	71
一般負傷	2,800	2,444	2,745	2,352	55	92
加害	49	39	54	33	▲5	6
自損行為	125	88	133	97	▲8	▲9
労働災害	131	129	109	104	22	25
運動競技	85	82	66	65	19	17
火災	27	5	26	3	1	2
水難	17	7	15	6	2	1
自然災害						
転院搬送	1,706	1,702	1,458	1,456	248	246
医師搬送	17	-	29	-	▲12	-
その他	419	4	429	5	▲10	▲1
合計	17,788	15,310	16,673	13,942	1,115	1,368

※ 医師搬送は搬送人員を計上しません

(2)救急出動の推移

区分	出動件数	搬送人員	増減数	
			出動件数	搬送人員
2023年	17,788	15,310	1,115	1,368
2022年	16,673	13,942	1,891	1,377
2021年	14,782	12,565	395	307
2020年	14,387	12,258	▲1,912	▲1,822
2019年	16,299	14,080	479	486
2018年	15,820	13,594	958	788
2017年	14,862	12,806	493	464
2016年	14,369	12,342	948	926
2015年	13,421	11,416	538	375
2014年	12,883	11,041	159	96

出動件数と増減率



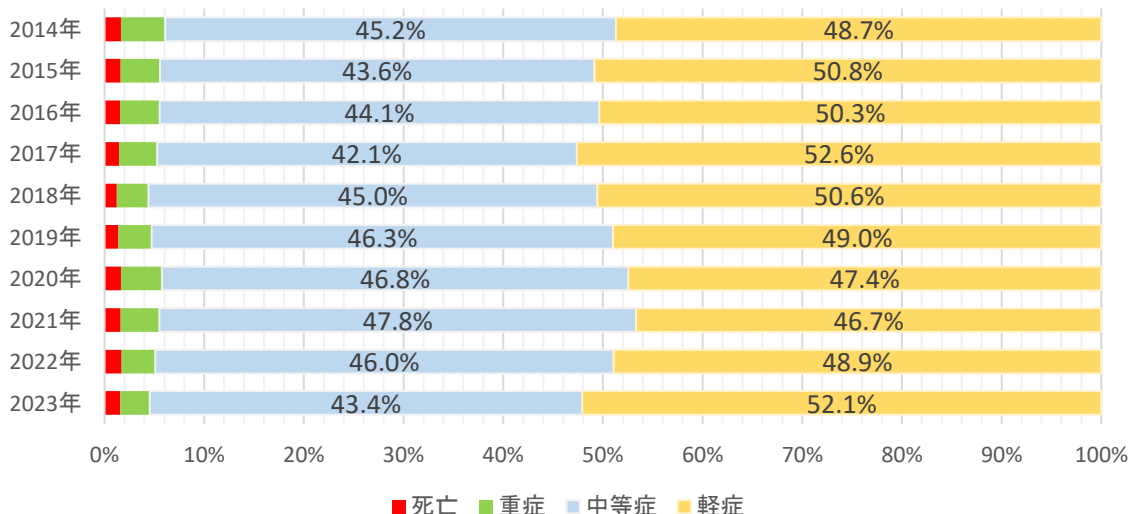
(3) 傷病程度別事故種別搬送人員

	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	合計
死亡	200	2	22	20	244
重症	213	24	93	118	448
中等症	4,115	143	828	1,562	6,648
軽症	5,453	660	1,501	356	7,970
合計	9,981	829	2,444	2,056	15,310

傷病程度は初診時における医師の診断に基づき次のように分類しています

- 死亡 : 初診時において死亡が確認されたものをいいます
- 重症 : 傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするものをいいます
- 中等症 : 傷病程度が重症または軽症以外のものをいいます
- 軽症 : 傷病程度が入院加療を必要としないものをいいます

(4) 年別傷病程度別搬送人員の推移



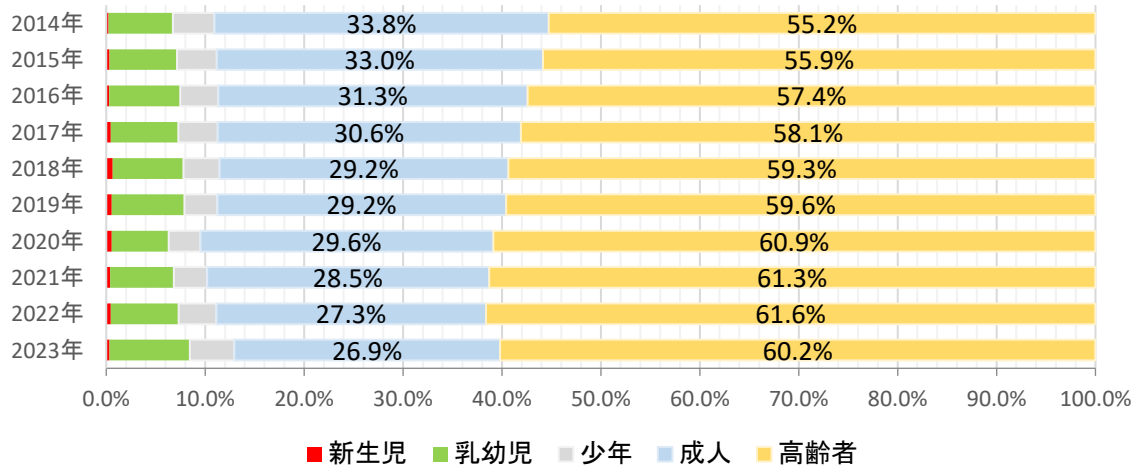
(5) 年齢区分別事故種別搬送人員

	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	合計
新生児	4		1	44	49
乳幼児	970	22	204	50	1,246
少年	390	107	85	105	687
成人	2,632	445	386	653	4,116
高齢者	5,985	255	1,768	1,204	9,212
合計	9,981	829	2,444	2,056	15,310

年齢区分は次のように分類しています。

- 新生児 : 生後28日未満の者
- 乳幼児 : 生後28日以上～満7歳未満の者
- 少年 : 満7歳以上～満18歳未満の者
- 成人 : 満18歳以上～満65歳未満の者
- 高齢者 : 満65歳以上の者

(6)年別年齢区分別搬送人員の割合



(7)月別事故種別出動件数及び搬送人員

事故種別	月	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	合計
		出動件数 搬送人員	出動件数 搬送人員	出動件数 搬送人員	出動件数 搬送人員	出動件数 搬送人員
月別	1月	1,061	77	274	212	1,624
		865	68	233	170	1,336
	2月	853	62	217	185	1,317
		727	57	189	144	1,117
	3月	853	82	227	225	1,387
		740	75	207	189	1,211
	4月	820	77	235	186	1,318
		710	68	201	149	1,128
	5月	921	67	194	203	1,385
		815	58	170	164	1,207
	6月	937	76	208	218	1,439
		844	72	190	184	1,290
	7月	1,086	81	230	240	1,637
		947	75	193	185	1,400
	8月	1,206	83	237	242	1,768
		1,044	68	207	185	1,504
	9月	1,002	63	219	234	1,518
		862	56	199	185	1,302
	10月	882	86	250	201	1,419
		790	76	215	163	1,244
	11月	856	76	245	218	1,395
		748	67	210	171	1,196
	12月	1,005	100	264	212	1,581
		889	89	230	167	1,375
合計	11,482	930	2,800	2,576	17,788	
	9,981	829	2,444	2,056	15,310	

(8)現場到着所要時間別出動件数

	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	合計
3分未満	26	4	13	36	79
3分以上5分未満	179	20	46	88	333
5分以上10分未満	7,374	615	1,782	1,683	11,454
10分以上20分未満	3,785	270	925	722	5,702
20分以上	118	21	34	47	220
平均所要時間(分)	8.9	9.0	8.9	8.6	

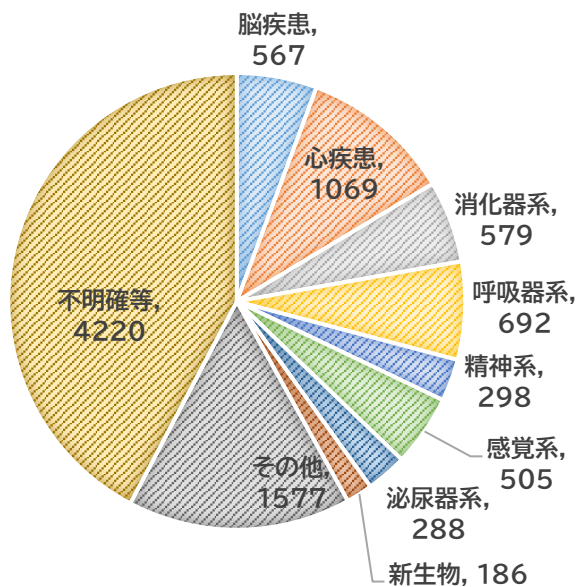
※ 現場到着所要時間:119番通報を受けてから現場に到着するまでに要した時間
 明石市平均 8.9分 全国平均 10.3分 (令和4年)

(9)病院収容所要時間別搬送人員

	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	合計
10分未満				3	3
10分以上20分未満	89	6	26	163	284
20分以上30分未満	1,887	114	383	711	3,095
30分以上60分未満	7,106	577	1,730	1,012	10,425
60分以上120分未満	860	126	299	159	1,444
120分以上	39	6	6	8	59
平均所要時間(分)	40.8	44.5	43.0	36.1	

※ 病院収容時間:119番通報を受けてから病院に収容するまでに要した時間
 明石市平均 40.7分 全国平均 47.2分 (令和4年)

(10)急病の疾病分類別搬送人員



※「感覚系」とは、「神経系の疾患」、「目及び付属器の疾患」、「耳及び乳様突起の疾患」をいう
 ※「不明確等」とは、「症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」をいう

4 救助出動

(1)発生場所別救助件数

発生場所 事故種別	出動件数 活動件数 救助人員	屋 内		屋 外			地 下	そ の 他	
		住 居	そ の 他 の 屋 内	道 路	水 面				そ の 他 の 屋 外
					内 水 面	外 水 面			
火 災 (建 物)	4	4							
	4	4							
	2	2							
火 災 (建 物 以 外)									
交 通 事 故	25			19			5	1	
	13			11			2		
	14			12			2		
水 難 事 故	16				2	14			
	10				2	8			
	7				1	6			
風 水 害 等 自 然 災 害									
機 械 に よ る 事 故	2		2						
	1		1						
	1		1						
建 物 等 に よ る 事 故	182	176	5				1		
	170	165	4				1		
	112	107	4				1		
ガ ス 及 び 酸 欠 事 故	1	1							
	1	1							
	1	1							
破 裂 事 故									
そ の 他 の 事 故	216	158	17	3			33	5	
	19	1					16	2	
	18	1					16	1	
合 計	446	339	24	22	2	14	39	6	
	218	171	5	11	2	8	19	2	
	155	111	5	12	1	6	19	1	

(2)月別事故種別出動件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
火災（建物）		3							1			
火災（建物以外）												
交通事故	1	2		2	3	2	1	5	2	2	3	2
水難事故	1		2	1					2	6	3	1
風水害等自然災害												
機械による事故			1					1				
建物等による事故	22	12	12	14	10	18	13	23	14	15	14	15
ガス及び酸欠事故		1										
破裂事故												
その他の事故	18	17	15	16	16	10	30	25	17	12	13	27
合計	42	35	30	33	29	30	44	54	36	35	33	45

(3)救助件数の推移

	救助出動件数		救助活動件数		救助人員	
	件数	増減数	件数	増減数	人数	増減数
2023年	446	▲14	218	11	155	▲1
2022年	460	24	207	37	156	30
2021年	436	41	170	13	126	17
2020年	395	4	157	15	109	▲4
2019年	391	36	142	▲17	113	▲12
2018年	355	48	159	20	125	9
2017年	307	▲5	139	4	116	8
2016年	312	59	135	27	108	21
2015年	253	18	108	▲2	87	▲13
2014年	235	▲4	110	▲5	100	13

5 風水害出動

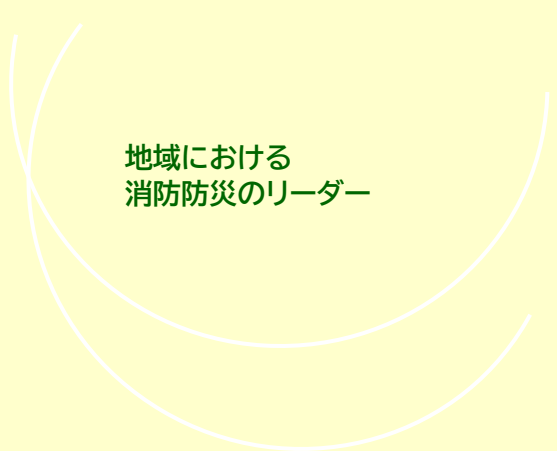
	2023年	2022年	増減数
出動件数	6	15	▲9

6 その他の災害出動

種別	2023年	2022年	増減数
	出動件数	出動件数	
P A 救 急	859	896	▲ 37
調 査	235	209	26
漏 洩 事 故	47	46	1
枯 草 焼 却	23	24	▲ 1
虚 報 誤 報	14	20	▲ 6
火 災 に 至 ら ず	17	20	▲ 3
専 用 道 救 急	4	7	▲ 3
ヘ リ 支 援	22	40	▲ 18
応 援	4	4	0
残 火 処 理	1		1
動 物 の 救 出	4	9	▲ 5
そ の 他	51	37	14
合 計	1,281	1,312	▲ 31

注)

- ・ PA救急とは、消防車(Pumper)と救急車(Ambulance)が同時に出動することです
そのため消防車にはAED(自動体外式除細動器)や、救命に必要な資機材を積載しています
心肺停止状態など高度な救命措置が必要な時や救急隊だけでは搬送が困難な時に出動し救急活動の支援を行います
- ・ 調査とは、火災報知器等の誤作動による鳴動や原因不明の異臭等で状況の確認が必要な場合です
- ・ ヘリ支援とは、ドクターヘリや消防防災ヘリ等の離着陸時に地上からのヘリ誘導や、砂埃が飛散しないように地面に水を撒くなどヘリコプター要請時の活動支援を目的としています
- ・ 火災に至らずとは、何らかの燃えた痕跡がある場合又は瞬間的に出火したが被害が無く収まった場合です
- ・ 残火処理とは、鎮圧した火災の残り火を消す再燃防止活動です
- ・ その他とは、上記に該当が無い出動要請の通報により出動した場合です

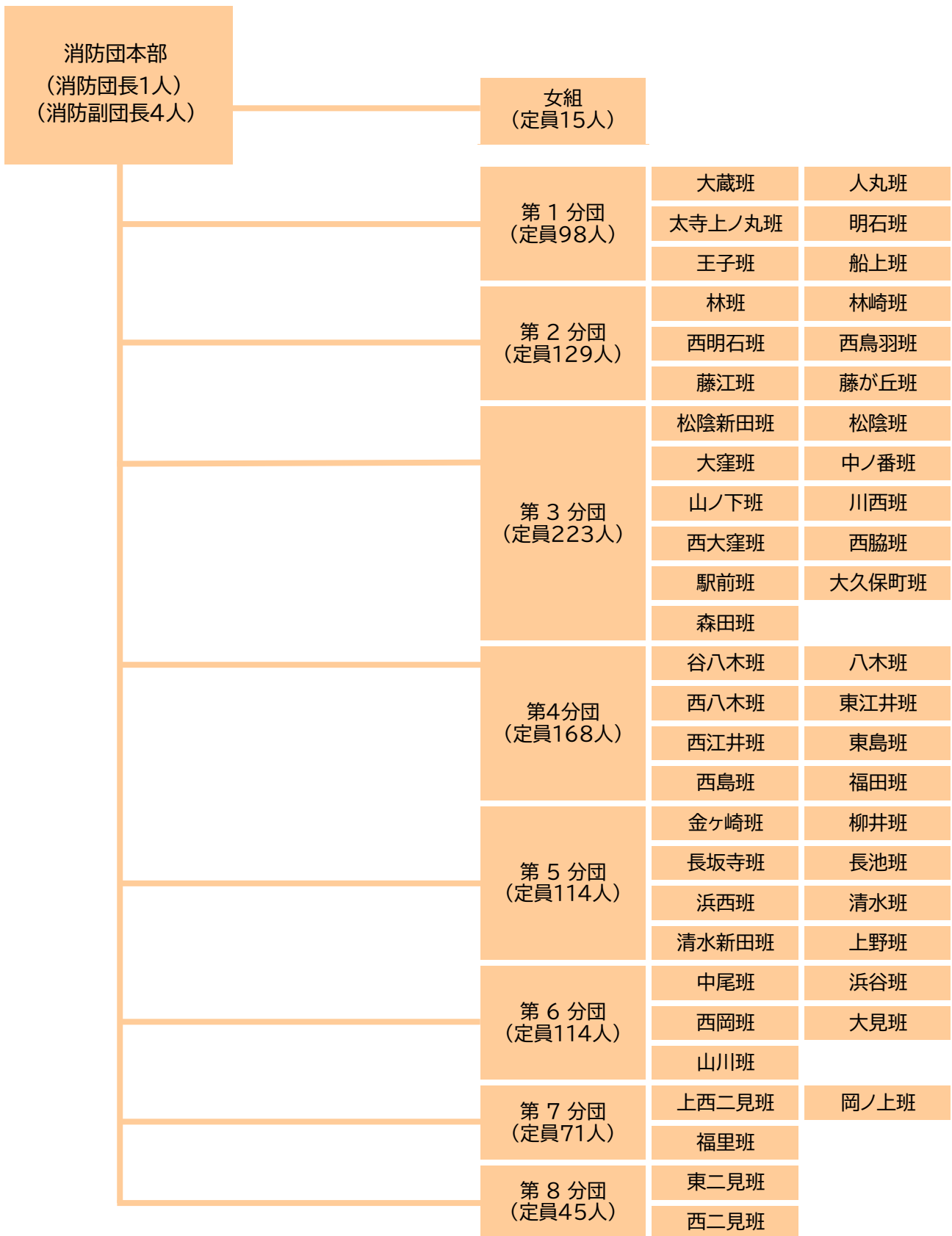


地域における
消防防災のリーダー

消防団

消防団とは、消防局や消防署と同様に消防組織法に基づき、それぞれの市町村に設置される消防機関です。
消防団は、他の職業等に就いている一般市民で構成されています。
地域に密着し住民の安心と安全を守るという重要な役割を担っています。

1 消防団組織機構



※定員とは、条例で定められた上限人数であり、実員ではありません
 ※定員には分団長、副分団長、部長、班長、団員が含まれます

2 消防団員階級別年齢構成

	人数	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
18歳	4							4
19歳	5							5
20歳	5							5
21歳	5							5
22歳	18							18
23歳	14							14
24歳	17							17
25歳	14							14
26歳	19							19
27歳	20							20
28歳	16							16
29歳	16						1	15
30歳	22							22
31歳	23						2	21
32歳	18							18
33歳	17						2	15
34歳	17							17
35歳	23						2	21
36歳	32							32
37歳	30						4	26
38歳	31						2	29
39歳	39						1	38
40歳	30						1	29
41歳	40						1	39
42歳	38						3	35
43歳	45						1	44
44歳	53						5	48
45歳	38						5	33
46歳	43					1	1	41
47歳	43					1	5	37
48歳	41						2	39
49歳	43				1	1	2	39
50歳	44					1	2	41
51歳	34			1	1	1	1	30
52歳	25						1	24
53歳	24					1		23
54歳	4			1			2	1
55歳	2				1		1	
56歳	4		1	2	1			
57歳	2				1	1		
58歳	3				2		1	
59歳	4		1	2	1			
60歳	3		1	1			1	
61歳								
62歳								
63歳	1			1				
64歳	2		1			1		
65歳								
66歳								
67歳	1	1						
68歳								
69歳								
70歳								
合計	972	1	4	8	8	8	49	894

平均年齢 40.3歳

3 消防団員階級別分団人員

	人数	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
団本部	5	1	4					
女組	14						1	13
第1分団	96			1	1	1	6	87
第2分団	124			1	1	1	6	115
第3分団	221			1	1	1	11	207
第4分団	163			1	1	1	8	152
第5分団	161			1	1	1	8	150
第6分団	79			1	1	1	4	72
第7分団	63			1	1	1	3	57
第8分団	46			1	1	1	2	41
合計	972	1	4	8	8	8	49	894

※女組は女性消防団員
 ※定数 1040

4 消防団機械器具配備状況

	消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ付き 積載車	小型動力ポンプ	総数
第1分団	1	4		5
第2分団		6		6
第3分団		10	1	11
第4分団		8		8
第5分団		8		8
第6分団		5		5
第7分団		3		3
第8分団		2		2
合計	1	46	1	48

5 消防団員の表彰等受賞状況

階 級		総数	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
区 分	褒 章								
消 防 庁 長 官	功 勞 章								
	永年勤続功労章	3				3			
兵 庫 県 知 事	功 勞 章								
	永年勤続功労章	7					6	1	
	家 族 の 賞	7					2	5	
	親子二代の賞	2				2			
	永年勤続50年								
日 本 消 防 協 会 長	功 績 章	1			1				
	精 績 章	2					2		
	勤 続 章	9			1		1		7
兵 庫 県 消 防 協 会 長	功 績 章	1				1			
	精 績 章	5					5		
	勤 続 章	23				1	3	19	
	精 勤 章	10					10		
	家族の賞 30年								
	家族の賞 40年	1		1					
	家族の賞 50年								
市 長	市 政 功 勞 表 彰								
	優 良 団 員 表 彰	32					4	28	
	家 族 の 賞	14					2	12	
団 長	優 良 団 員 表 彰	33					2	31	
消 防 長	優 良 団 員 表 彰	33					4	29	

付 録

明石消防の沿革

当市は、古くから城下町として発展した関係上、明治維新前には各町に町火消が組織され、全町で10数台の龍吐水を設置し、郡代役所で統括していた。

明治27年2月に消防組規則が制定され、東西2部の明石市消防組が設けられる。

その後、昭和5年に常備消防隊が設置されその規模は消防ポンプ自動車1台、人員4名であったが昭和9年には消防ポンプ自動車2台、人員8名に増強される。

- | | |
|-------------------|--|
| 昭和 14 年 4 月 1 日 | 消防組を改称し、明石市警防団として発足。(4分団、団員550名) |
| 昭和 17 年 2 月 11 日 | 明石郡林崎村合併により明石市警防団は7分団、団員850名となる |
| 昭和 19 年 12 月 22 日 | 明石警察署内に板宿消防署の分遣隊を置く(消防ポンプ自動車4台、人員22名) |
| 昭和 20 年 2 月 1 日 | 消防力の整備充実を図るため神戸葺合消防署が移駐され、大明石町2丁目天理教内に官設消防署を開設し、東播消防大隊と改称、その規模は、消防ポンプ自動車14台、人員232名をもって、加古川、高砂、三木各町及び垂水分駐所を設け東播地区の火災防ぎよ警戒にあたる |
| 昭和 21 年 2 月 20 日 | 明石国民学校(現明石小学校)の一部を仮庁舎として消防署を移転明石消防署と改称 |
| 昭和 21 年 11 月 28 日 | 山陽電鉄事務所(旧東仲ノ町山電下り駅)を仮庁舎として明石消防署を移転 |
| 昭和 22 年 2 月 | 明石消防署の管轄区域は明石市及び加古川市、高砂各町となり、加古川町寺家町64高砂町消防会館にそれぞれ出張所を設置 |
| 昭和 22 年 4 月 | 加古川消防署発足に伴い、管轄の加古川、高砂両町は加古川消防署へ移管し神戸市垂水区を加え垂水出張所を開設 |
| 昭和 22 年 8 月 31 日 | 内務省令により、従前の警防団を廃止、明石消防団として発足
(1団、9ヶ分団、団員500名) |
| 昭和 23 年 3 月 7 日 | 消防組織法の公布施行により、明石市消防本部及び消防署の設置条例並びに明石市消防本部、消防署の位置名称及び管轄区域に関する条例を公布施行し、明石市消防本部、明石市消防署として発足
垂水出張所は神戸市へ移管となる。(1本部1署) |
| 昭和 23 年 6 月 15 日 | 明石市大明石町1丁目1450番地の7に新庁舎が竣工し、本部及び消防署を移転 |
| 昭和 24 年 9 月 1 日 | 西部方面の火災防ぎよのため、明石市藤江889番地に消防分署を設置
明石市消防署西分署として業務を開始する。(1本部1署1分署) |
| 昭和 26 年 1 月 10 日 | 明石郡大久保町、同魚住村、加古郡二見町の三ヶ町村との合併により消防団は4団になる(4団、42分団、団員1,916名)
消防組織の強化充実を図るため、職員定数を70名に改める |
| 昭和 28 年 10 月 31 日 | 明石市消防団条例を改正し、消防団を統合して、明石、大久保、魚住、二見の4消防団における連合消防団制とする
(4団、42分団、1,916人、ポンプ自動車3台、手引動力ポンプ30台) |
| 昭和 31 年 10 月 1 日 | 消防組織の強化充実を図るため、職員定数を82名に改める |

昭和 32 年 3 月 11 日	明石市二見町東二見450番地、明石警察署二見巡查部長派出所内に消防分署を設置、明石市消防署二見分署として業務を開始する。(1本部1署2分署)
昭和 38 年 8 月 1 日	消防組織の強化充実を図るため、職員定数を96名に改める
昭和 39 年 2 月 24 日	明石市大久保町江井島794番地の8に消防分署を設置、明石市消防署江井島分署として業務を開始する。(1本部1署3分署)
昭和 39 年 10 月 14 日	消防法の一部改正により救急業務実施政令都市となり救急自動車を配置し救急業務を開始
昭和 40 年 4 月 1 日	連合消防団制を廃止し、1市1団制の組織改革を行う (1団8分団、49班、人員1,200名、ポンプ自動車6台、小型動力ポンプ23台、手引動力ポンプ13台)
昭和 42 年 3 月 21 日	消防団員定数を1,156名に改める
昭和 43 年 4 月 1 日	消防組織の強化充実を図るため、職員定数を103名に改める
昭和 43 年 4 月 12 日	明石市二見町西二見767番地の3に二見分署庁舎が竣工し、二見分署を移転
昭和 44 年 4 月 1 日	消防本部、消防署の組織機構を改正 消防本部(3課6係) 消防署(2係3分署) 消防吏員117名
昭和 44 年 4 月 15 日	明石市魚住町西岡500番地に消防分署を設置、明石市消防署魚住分署として業務を開始(1本部1署4分署)
昭和 45 年 1 月 13 日	消防対象物の高層化に対処するため、屈折はしご付消防ポンプ自動車(15m級)を本署に配置
昭和 45 年 4 月 1 日	消防組織の強化充実を図るため、職員定数を131名に改める 消防団員定数を1,040名に改める
昭和 45 年 7 月 23 日	都市化の発展に伴う本市の消防体制の充実を図るため、明石市消防審議会を開催
昭和 46 年 4 月 1 日	消防組織の強化充実を図るため、職員定数を148名に改める
昭和 46 年 6 月 1 日	明石市朝霧町3丁目10番1号に消防分署を設置、明石市消防署朝霧分署として業務を開始(1本部1署5分署)
昭和 46 年 6 月 18 日	重化学消防ポンプ自動車を消防署に配置
昭和 47 年 4 月 1 日	消防組織の強化充実を図るため、職員定数を166名に改める
昭和 47 年 7 月 19 日	明石市中崎1丁目6番20号に消防庁舎が竣工し消防本部、消防署を移転
昭和 47 年 12 月 1 日	二見分署に救急自動車を配置(2隊制)
昭和 48 年 4 月 1 日	消防組織の強化充実を図るため、職員定数を179名に改める
昭和 48 年 11 月 30 日	救急自動車を二見分署より魚住分署に配置換する
昭和 49 年 2 月 8 日	消防対象物の高層化に対処するため、はしご付消防ポンプ自動車(38m級)を消防署に配置
昭和 49 年 3 月 25 日	救助工作車を消防署に配置
昭和 50 年 7 月 10 日	消防本部の組織機構を改正し、警防課に通信係を新設
昭和 51 年 8 月 18 日	明石市藤江890番地の3に西分署庁舎が竣工し、西分署を移転
昭和 51 年 9 月 1 日	西分署に救急自動車を配置(3隊制)
昭和 53 年 4 月 1 日	消防署の組織機構を改正し、予防係を新設
昭和 55 年 7 月 25 日	都市化の発展に伴う本市の消防体制の充実を図るため、明石市消防審議会を開催

昭和 56 年 3 月 31 日	魚住分署を増改築する
昭和 57 年 2 月 16 日	西分署の名称を西明石分署に改める
昭和 57 年 2 月 17 日	明石市大久保町西脇364番地の12に消防分署を設置、明石市消防署大久保分署として業務を開始(1本部1署6分署)
昭和 57 年 12 月 21 日	昭和43年建築の二見分署庁舎を取り壊し、同地に庁舎を新築
昭和 60 年 2 月 16 日	屈折はしご付消防ポンプ自動車(15m級)を消防署に更新配置
昭和 60 年 3 月 30 日	昭和39年建築の江井島分署庁舎を取り壊し、同地に庁舎を新築
昭和 61 年 3 月 1 日	多種多様化する災害に対応し円滑な指令伝達、情報収集を行うため、通信指令室の増改築を実施し指令装置等の更新を行うとともに地図検索装置を導入、各署所を結ぶファクシミリ装置の設置などのシステム化を図る また、風水害による被害をいち早く予測しその被害を軽減するために気象観測装置及び河川、流域総合情報システムを導入
昭和 61 年 12 月 1 日	電源照明付救助工作車を消防署に更新配置
昭和 62 年 3 月 24 日	西明石分署を増改築(平屋建から2階建となる)
昭和 62 年 8 月 28 日	(財)日本消防協会より、電源照明付資器材等搬送車の寄贈を受ける
昭和 62 年 9 月 3 日	日本損害保険協会より、普通消防ポンプ自動車の寄贈を受ける
昭和 63 年 3 月 1 日	ハニー化成(株)より、化学消防ポンプ自動車の寄贈を受ける
平成 2 年 11 月 20 日	救急出動の増加に伴い、救急自動車の規格の向上を図る
平成 3 年 2 月 21 日	西明石ロータリークラブより、聴覚言語障害者の非常時における119番通報に対処するため、専用ファクシミリ装置の寄贈を受ける
平成 3 年 4 月 1 日	消防組織の強化、充実を図るため職員定数を200名に改める
平成 3 年 11 月 1 日	救急業務の増加に伴い、大久保分署に救急隊を配置(4隊制)
平成 4 年 2 月 12 日	都市化の発展に伴う本市の消防体制の充実を図るため、明石市消防審議会を開催
平成 4 年度中	救急救命士の養成を開始
平成 5 年 3 月 11 日	応急処置の範囲の拡大に伴い救急業務の高度化を図るため、準高規格救急自動車を消防署に配置
平成 5 年 4 月 1 日	消防組織の強化充実を図るため、職員定数を215名に改める 衛星通信を活用した「兵庫県衛星通信ネットワーク」の運用を開始
平成 5 年 10 月 27 日	高規格救急自動車を消防署に配置
平成 6 年 1 月 10 日	救急救命士業務の試験運用を開始
平成 6 年 3 月 25 日	西明石分署に救急消毒室を設置
平成 6 年 4 月 1 日	救急救命士業務の本格運用を開始 消防本部、消防署の組織機構を改正し、消防本部警防課に救急救助係を新設、技術係を装備係に改める。消防署に管理係を新設
平成 6 年 11 月 1 日	高規格救急自動車を西明石分署に配置
平成 7 年 1 月 17 日	午前5時46分 兵庫県南部地震発生(M7.3) 死者 11人、火災 6件
平成 7 年 2 月 10 日	40m級はしご付消防自動車を消防署に更新配置
平成 7 年 12 月 8 日	明石市セントラルライオンズクラブより消防の行う応急手当普及啓発活動推進のため、応急手当普及広報車の寄贈を受ける

平成 7 年 12 月 15 日	救助工作車を大久保分署に配置
平成 8 年 2 月 29 日	指揮先行車を消防署に配置
平成 8 年 3 月 8 日	魚住分署に救急消毒室を設置
平成 8 年 3 月 22 日	小型動力ポンプ付水槽車を消防署に配置
平成 8 年 12 月 1 日	高規格救急自動車を魚住分署に配置
平成 9 年 4 月 1 日	高規格救急自動車を大久保分署に配置 消防組織の強化充実を図るため、職員定数を225名に改める
平成 10 年 1 月 11 日	自治体消防50周年記念・平成10年明石市消防出初式挙行 自治体消防50周年記念誌「明石市消防50年のあゆみ」発刊
平成 10 年 3 月 31 日	朝霧分署を増改築し、救急消毒室の設置、仮眠室を個室にする
平成 10 年 4 月 1 日	高規格救急自動車を朝霧分署に配置(5隊制) 自動車電話・携帯電話からの119番通報受信を開始
平成 10 年 12 月 20 日	新消防庁舎基本計画書を策定
平成 11 年 3 月 25 日	新消防庁舎用地の造成工事が完了
平成 11 年 3 月 31 日	救助工作車Ⅲ型を消防署に更新配置
平成 11 年 4 月 20 日	通信指令装置のオーバーホールを実施
平成 11 年 7 月 1 日	コンピューター西暦2000年問題対策本部を設置
平成 12 年 3 月 17 日	災害対応特殊救急自動車を消防署に更新配置
平成 12 年 9 月 28 日	水槽付消防ポンプ自動車を消防署に更新配備 応急救護所用エアータント(TAT-600型)1張りを配備する インパルス消火システム2基を配備する
平成 12 年 12 月 7 日	日本損害保険協会より、水槽付消防ポンプ自動車の寄贈を受ける
平成 13 年 3 月 22 日	緊急時における多目的活動の装備充実のため、川崎重工業(株)より寄贈を受けた 消防用オートバイ2台を消防署に配備
平成 13 年 3 月 30 日	災害対応特殊救急自動車を西明石分署に更新配置
平成 13 年 7 月 21 日	第32回明石市民夏まつり花火大会事故発生
平成 13 年 10 月 15 日	屈折はしご付消防自動車(15m級)を廃車し、はしご付消防自動車(30m級)を 消防署に配置
平成 14 年 2 月 12 日	化学消防ポンプ自動車Ⅱ型を二見分署に更新配置
平成 15 年 2 月 28 日	明石市藤江924番地の8に、明石市防災センターを併設した新消防庁舎が竣工
平成 15 年 3 月 1 日	西明石分署(藤江890番地の3)を廃止し、業務を新消防庁舎へ仮移転
平成 15 年 3 月 7 日	消防緊急情報システムの完成に伴い、消防本部の情報指令室が新消防庁舎にて 業務を開始
平成 15 年 4 月 14 日	新消防庁舎に、消防本部、消防署を移転し、業務を開始すると共に、明石市防災セン ターを開館 旧消防本部、消防署庁舎(中崎1丁目6番20号)は中崎分署として業務を継続
平成 15 年 12 月 16 日	災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車を魚住分署に更新配置
平成 16 年 4 月 1 日	消防組織の強化充実を図るため、職員定数を233名に改める
平成 16 年 12 月 21 日	災害対応特殊救急自動車を魚住分署に更新配置

平成 17 年 2 月 8 日	二見分署を増改築し救急消毒室の設置、仮眠室を個室にする
平成 17 年 3 月 11 日	災害対応特殊救急自動車を二見分署に配置(6隊制)
平成 18 年 2 月 26 日	指揮先行車を消防署(本署)に更新配置
平成 18 年 2 月 28 日	災害対応特殊消防ポンプ自動車を中崎分署に更新配置
平成 18 年 7 月 5 日	無線指令車を警防指揮車として更新配備
平成 19 年 1 月 30 日	緊急輸送車を消防署(本署)に更新配備
平成 19 年 2 月 22 日	高規格救急車を朝霧分署に更新配備
平成 19 年 12 月 11 日	災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車を大久保分署に更新配置
平成 21 年 1 月 13 日	災害対応特殊消防ポンプ自動車(CAFS対応)を朝霧分署及び江井島分署に更新配置
平成 21 年 3 月 19 日	災害対応特殊救急自動車を消防署(本署)に更新配置
平成 21 年 3 月 23 日	中崎分署を改修し、救急消毒室の設置、仮眠室を個室にする
平成 22 年 1 月 18 日	水槽付消防ポンプ自動車(CAFS対応)を消防署(本署)に更新配置
平成 22 年 2 月 17 日	災害対応特殊救急自動車を中崎分署に更新配置
平成 23 年 1 月 16 日	大久保分署を増改築し、救急消毒室の設置、仮眠室を個室にする
平成 23 年 1 月 20 日	災害対応特殊化学消防ポンプ自動車Ⅱ型を消防署(本署)に更新配置
平成 23 年 1 月 18 日	災害支援車Ⅰ型を消防署(本署)に配置(総務省消防庁)
平成 23 年 1 月 31 日	災害対応特殊救急車を江井島分署に配置(7隊制)
平成 23 年 3 月	東日本大震災により、宮城県に緊急消防援助隊(兵庫県隊)を派遣 (派遣期間3月11日～4月24日)
平成 23 年 3 月 15 日	江井島分署を増改築し、救急消毒室の設置、仮眠室を個室にする
平成 23 年 12 月 13 日	救助工作車Ⅱ型を中崎分署に更新配置
平成 24 年 2 月 28 日	多目的災害対応コンテナ車を消防署(本署)に配置
平成 24 年 3 月 9 日	水槽付消防ポンプ自動車を中崎分署に更新配置
平成 25 年 2 月 21 日	災害対応特殊救急自動車を魚住分署に更新配置
平成 25 年 2 月 26 日	消防ポンプ自動車(CAFS対応)を魚住分署に更新配置
平成 25 年 4 月 1 日	消防署(本署)の特別救助隊を高度救助隊として発隊
平成 25 年 11 月 14 日	災害対応特殊高規格救急自動車を大久保分署及び二見分署に更新配置
平成 26 年 4 月 1 日	高機能消防指令センターの運用を開始する。(指令システム更新) 消防救急デジタル無線システムの運用を開始
平成 26 年 12 月 1 日	災害対応特殊はしご付消防自動車(40m級)を消防署(本署)に配置
平成 27 年度中	
平成 27 年 4 月 1 日	介護予防教育を全国に先駆けて実施
平成 27 年 10 月 29 日	高規格救急自動車を朝霧分署に更新配置
平成 28 年 4 月	熊本地震に緊急消防援助隊(兵庫県隊)を派遣 (派遣期間4月16日～4月22日)
平成 28 年 11 月 11 日	災害対応特殊救急自動車を消防署(本署)に更新配置
平成 28 年 11 月 30 日	災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車(CAFS対応)を大久保分署に更新配置
平成 29 年 10 月 20 日	災害対応特殊救急自動車を中崎分署に更新配置

平成 29 年 11 月 22 日 災害対応特殊消防ポンプ自動車(CAFS対応)を朝霧分署に更新配置

平成 30 年 4 月 1 日 明石市の中核市移行に伴い組織名称を明石市消防局とする

平成 30 年 7 月 平成30年西日本豪雨災害により、広島県に緊急消防援助隊(兵庫県隊)を派遣
(派遣期間7月12日～7月20日)

平成 30 年 10 月 16 日 高規格救急自動車を江井島分署に更新配置

平成 31 年 3 月 8 日 救助工作車Ⅲ型を消防署(本署)に更新配置

令和 元 年 9 月 13 日 高規格救急自動車を魚住分署に更新配置

令和 2 年 3 月 2 日 化学消防ポンプ自動車Ⅱ型を二見分署に更新配置

令和 2 年 4 月 1 日 消防組織の強化充実を図るため、職員定数を238名に改める

令和 2 年 12 月 2 日 高規格救急自動車を大久保分署に更新配置

令和 3 年 2 月 12 日 緊急支援車を消防署(本署)に更新配置

令和 3 年 3 月 2 日 査察広報車を予防課に更新配置

令和 3 年 2 月 18 日 ブーム付消防ポンプ自動車を中崎分署に更新配置

令和 3 年 10 月 1 日 消防組織の強化充実を図るため、職員定数を264名に改める

令和 3 年 11 月 18 日 災害対応特殊消防ポンプ自動車(CAFS対応)を江井島分署に更新配置

令和 4 年 3 月 3 日 災害対応特殊救急自動車を二見分署に更新配置

令和 4 年 11 月 7 日 災害対応特殊救急自動車を朝霧分署に更新配置

令和 6 年 1 月 令和6年能登半島地震により、石川県に緊急消防援助隊(兵庫県)を派遣
(派遣期間1月15日～2月21日)

令和 6 年 3 月 4 日 災害対応特殊救急自動車を消防署(本署)に更新配置

令和 6 年 4 月 1 日 高機能消防指令センターの運用を開始(指令システムの更新)